

Ⅱ．研究の概要

1．はじめに

笹川スポーツ財団（SSF）では、国民一人ひとりが自分の生き方に合わせたスポーツを楽しむ、幸福を見出す社会（スポーツ・フォー・エブリワン）の創造をミッションとし、国民のスポーツライフに関する定点観測として「スポーツ活動に関する全国調査」「10代の運動・スポーツ活動に関する全国調査」を実施している。

2010年調査によると、過去1年間に何らかの運動・スポーツを実施した成人は75.0%と全体の4分の3を占める。そのうち、定期的な週1回以上の運動・スポーツ実施者は59.0%であり、1996年の40.6%から1.5倍にまで増加した。しかし、1996年以降の14年間における週1回以上の実施率の推移を運動・スポーツ種目別に調べると、増加していたのは「ウォーキング・散歩」や「筋力トレーニング」「ヨガ」などのわずかな運動（エクササイズ）系種目であり、特に「ウォーキング・散歩」の実施率の増加が大きく影響していることが明らかとなった（笹川スポーツ財団, 2011）。同時に、オリンピックの実施種目に代表される近代スポーツ（競技系スポーツ種目）やレジャースポーツ、アウトドアスポーツの実施率は変化がみられない、もしくは低下している状況が示された。社会の変化にともない、人々の運動・スポーツへの関わり方やニーズも変化しつつある今日においては、運動・スポーツを一括りにし、その変化を追うだけでは不十分である。種目ごとに経年変化を捉え、実施状況を明らかにしていく必要があり、そこから導き出される結果は、運動・スポーツに関する日本人の動向や今後の振興策の方向性を示唆する判断材料になると思われる。

2．目的

本研究では、2000年から2010年までの「スポーツ活動に関する全国調査」および2001年から2009年までの「10代の運動・スポーツ活動に関する全国調査」を二次分析し、成人および青少年の運動・スポーツ実施率の推移やニーズを種目別に明らかにすることで、スポーツ・フォー・エブリワンの推進に役立つ基礎資料とすることを目的とした。

3. 対象データについて

(1) 「スポーツ活動に関する全国調査」(2000～2010)

	調査年					
	2000年	2002年	2004年	2006年	2008年	2010年
母集団	全国の市区町村に居住する満20歳以上の男女					
標本数	3,000人			2,000人		
地点数	市部164地点 郡部46地点 合計210地点	市部166地点 郡部44地点 合計210地点	市部168地点 郡部42地点 合計210地点	市部176地点 郡部34地点 合計210地点	市部189地点 郡部21地点 合計210地点	市部189地点 郡部21地点 合計210地点
抽出方法	層化二段無作為抽出法				割当法	
調査方法	訪問留置法による質問紙調査					
有効回収数(率)	2,232(74.4%)	2,267(75.6%)	2,288(76.3%)	1,867(62.2%)	2,000(100%)	
調査時期	5月～6月			6月～7月	5月～6月	
運動・スポーツ実施の範囲	学校の授業は除くが、学校や職場のクラブ活動は含む					
調査内容	運動・スポーツ実施状況、今後行いたい運動・スポーツ種目(実施希望)、スポーツクラブの加入状況、スポーツ観戦の有無、スポーツボランティア参加の有無、運動・スポーツへの態度など					

(2) 「10代の運動・スポーツ活動に関する全国調査」(2001～2009)

	調査年		
	2001年	2005年	2009年
母集団	全国の市区町村に居住する10歳から19歳の男女		
標本数	1,800人	2,500人	3,000人
地点数	市部92地点 郡部28地点 合計120地点	市部143地点 郡部32地点 合計175地点	市部155地点 郡部20地点 合計175地点
抽出方法	層化二段無作為抽出法		
調査方法	訪問留置法による質問紙調査		
有効回収数(率)	1,358(75.4%)	1,806(72.2%)	1,989(66.3%)
調査時期	10月～11月	6月～7月	
運動・スポーツ実施の範囲	幼稚園・学校の休み時間の活動・部活動は含めるが、園・学校の授業や行事(マラソン大会等)は含めない。		
調査内容	運動・スポーツ実施状況、今後行いたい運動・スポーツ種目(実施希望)、スポーツ指導者の有無、スポーツクラブの加入状況、スポーツ観戦の有無、スポーツボランティア参加の有無など		

4. 分析方法

SSF「スポーツ活動に関する全国調査 2010」の調査結果より、成人の年1回以上の実施率上位30種目の中から、(公財)日本オリンピック委員会加盟団体の12種目およびバスケットボールの合計13種目に関する2000年から2010年までのデータを抽出した。ゴルフにおいては「コース」と「練習場」に分けて調査を行っているが、本研究では「ゴルフ(コース)」の実施者のデータのみを使用した。同様の種目について、「10代の運動・

スポーツ活動に関する全国調査」より青少年における 2001 年から 2009 年までのデータを抽出した。これらのデータをもとに、成人および青少年における各種目の実施率の推移、実施率と実施者の属性及び今後行いたい種目とのクロス集計を行った。

対象とした種目は以下のとおりである。

表 I 対象種目

対象種目		
1. ボウリング	6. サッカー	11. ソフトボール
2. ゴルフ(コース)	7. 野球	12. バレーボール
3. 水泳	8. 卓球	13. バスケットボール
4. バドミントン	9. スキー	
5. 登山	10. テニス(硬式)	

5. 分析内容

- (1) 成人の種目別スポーツ実施人口の推移
- (2) 青少年（10代）の種目別スポーツ実施人口の推移
- (3) 種目別スポーツ実施人口と実施希望人口
- (4) 成人の種目別スポーツ実施者の性別・年代別構成
- (5) 青少年（10代）の種目別スポーツ実施者の性別・年代別構成

6. 実施体制

共同研究者：海老原 修（横浜国立大学教育人間科学部 教授）

協力：飯島 沙織（早稲田大学大学院スポーツ科学研究科）

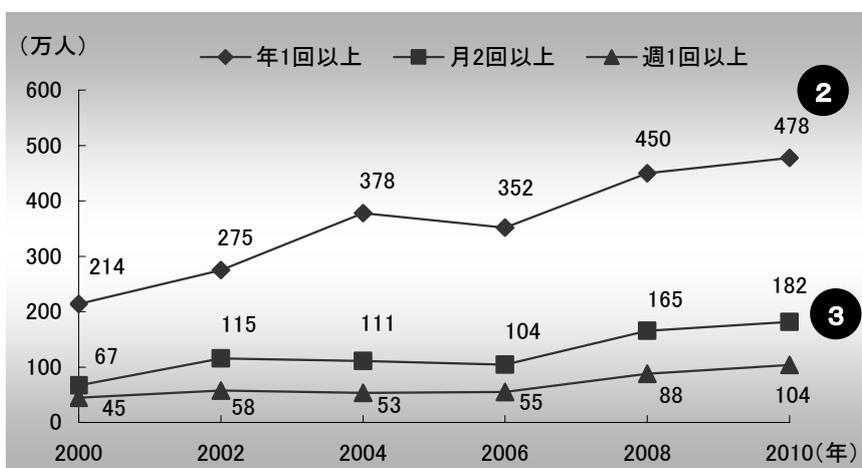
藤岡 成美（早稲田大学大学院スポーツ科学研究科）

7. 本報告書の読み方

本報告書では、運動・スポーツの実施状況を成人では「年1回以上」「月2回以上」「週1回以上」の3指標、青少年（10代）では「年1回以上」「週2回以上」「週5回以上」の3指標で示した。SSF「スポーツ活動に関する全国調査」および「10代の運動・スポーツに関する全国調査」において、まず、過去1年間の運動・スポーツ実施の有無と行った種目をたずね、「年1回以上」の実施率を算出した。次いで、過去1年間に運動・スポーツを行った者に対し、よく行った運動・スポーツ種目のうち、回数の多いものから順に5種目まで回答を求め、それぞれに実施頻度をたずねた。そこで得られた結果から成人では「月2回以上」「週1回以上」、青少年（10代）は「週2回以上」「週5回以上」の実施頻度と実施率を算出し、実施率に住民基本台帳の人口(人)を乗じて実施人口を算出した。

なお、成人における「月2回以上」は年24回以上、「週1回以上」は年52回以上の実施回数から算出し、青少年（10代）においては「週2回以上」は年104回以上、「週5回以上」は年間260回以上の実施回数から算出した。

図2-1 成人のサッカー実施人口の推移



	2000年 (n=2,232)	2002年 (n=2,267)	2004年 (n=2,288)	2006年 (n=1,867)	2008年 (n=2,000)	2010年 (n=2,000)
年1回以上 (%)	2.2	2.7	3.7	3.4	4.4	4.6
月2回以上 (%)	0.7	1.1	1.1	1.0	1.6	1.8
週1回以上 (%)	0.4	0.6	0.5	0.5	0.9	1.0
住民基本台帳の 成人人口(人)	99,426,665	100,649,429	101,730,947	102,636,961	103,387,474	103,824,522

笹川スポーツ財団「スポーツ活動に関する全国調査」(2000～2010)より作成

- ① 実施人口は住民基本台帳の人口(人)に、実施率(%)を乗じて算出
- ② 「年1回以上」は「月2回以上」と「週1回以上」も含む
- ③ 「月2回以上」は「週1回以上」も含む